

8 月定例教育委員会会議録

公開案件

開催日時	令和 4 年 8 月 1 9 日（金） 午前 1 0 時から	
開催場所	奈良市役所 中央棟地下 1 階 B 1 会議室	
出席者	委員	北谷教育長、畑中委員、柳澤委員、梅田委員、川村委員 【計 5 人出席】
	事務局	沖本課長補佐、中垣主任、上羅
	理事者	【教育委員会】 竹平教育部長、垣見教育部次長、伊東教育部次長、石原教育センター所長、五味原教育政策課長、徳岡教育総務課長 【市長部局】 鈴木子ども未来部長、田村保育総務課長、松田保育所・幼稚園課長
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
議 題	1 教育長報告 (1) 令和 4 年度 9 月補正予算要求額について 非公開 2 議案 議案第 2 3 号 令和 4 年度奈良市教育委員会施策評価報告書（令和 3 年度教育委員会活動の点検・評価報告）について 議案第 2 4 号 令和 5 年度奈良市立幼稚園園児募集要項について 非公開	
決定取り纏め事項	1 教育長報告 (1) 令和 4 年度 9 月補正予算要求額については、了承した。 2 議案 議案第 2 3 号 令和 4 年度奈良市教育委員会施策評価報告書（令和 3 年度教育委員会活動の点検・評価報告）については、可決した。 議案第 2 4 号 令和 5 年度奈良市立幼稚園園児募集要項については、可決した。	
担当課	教育委員会教育部 教育政策課	

議事の内容	
教 育 長	<p>皆さん、おはようございます。 定刻となりましたので始めさせていただきます。 事務局より資料の説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>本日の資料につきましては、既にお渡ししているとおりでございます。 よろしくをお願いします。</p>
教 育 長	<p>本日の委員会は委員全員が出席しており、委員会は成立します。 ただいまから、8月定例教育委員会を開会いたします。 本日の会議録署名委員は、私と梅田委員でございます。よろしくお願 いいたします。 次に、会議録の確認を行います。 7月定例教育委員会の会議録署名委員は、柳澤委員です。柳澤委員、い かがでしょうか。</p>
柳 澤 委 員	<p>結構でございます。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。 次に、8月臨時教育委員会の会議録署名委員は、畑中委員でございます。 畑中委員、いかがでしょうか。</p>
畑 中 委 員	<p>結構です。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。 本日の傍聴人はおられません。 それでは、本日の案件に入ります。 本日の案件は、教育長報告1件、議案2件の計3件でございます。 なお、前月使用承認いたしました後援名義は16件でございますので、 ご報告を申し上げます。 本日の案件のうち、教育長報告（1）は議会の議決を経るべき案件、議 案第24号は公表前の情報に関する案件であるため、非公開として審議す べきであると思いますが、いかがでしょうか。</p>
各 委 員	<p>異議なし。</p>
教 育 長	<p>異議なしと認めます。 よって、教育長報告（1）及び議案第24号は、非公開とすることに決 定いたしました。 それでは、公開の案件から始めます。</p>

最初に、議案第23号「令和4年度奈良市教育委員会施策評価報告書」について、教育政策課長より説明願います。

教育政策課長

説明させていただきます。

奈良市教育委員会施策評価報告書につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項におきまして、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」となっております。また、同条第2項におきまして、「教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」と定められております。

今年度につきましては、昨年度に引き続き、外部評価者は、近畿大学経済学部の仲林教授と、奈良教育大学教育学部の橋崎准教授の2名となっております。

なお、今年度からでございますが、施策評価報告書を作成するにあたり、2点変更しております。昨年度までは奈良市の最上位計画である奈良市総合計画の体系に基づき、総合計画にひもづいている教育関係の事業を抽出して評価を行っていましたが、今年度から、一昨年に策定し昨年度から施行している第2期奈良市教育振興基本計画の体系に基づき、その項目にひもづいた事業を評価対象とすると改めております。

また、KPI（重要業績評価指標）についても改めて今回から設定しております。昨年度までは総合計画にひもづく各施策単位で総合計画上にある限られた評価指標を設定していましたが、今年度からは各関連事業単位でKPIを設定し、各年度ごとに目標値を設定して達成度を測ることにより、関連事業の評価の理由を明確にしております。

令和4年度の奈良市教育委員会施策評価の構成について説明させていただきます。報告書の11ページからの評価シート1は「教育委員会が管理・執行する事務」、17ページの評価シート2は「教育委員の活動」となっております。こちらにつきましては教育委員の皆様にも内容をご検討いただきました。

また、21ページの評価シート3から評価シート38まで、計36シートは、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」でございます。こちらに関しましては、教育委員会事務局の各課で作成し、外部評価者にご意見を伺いながら点検・評価を行っております。

また、報告書作成にあたり、施策評価懇談会を7月25日にオンラインで開催し、外部評価者と教育委員の皆様との意見交換、外部評価者と事務局との各シートごとの意見交換を実施いたしました。評価シート1から38までの各施策における外部評価者の意見につきましては、各シートにございます総括評価の欄に記載しております。また、施策全体に対する意見につきましては、最終ページの149ページに記載しております。

この施策評価報告書を教育委員会においてご審議いただきまして、奈良市議会9月定例会に提出しようとするものでございます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

教 育 長

今、教育政策課長より、施策評価報告書の作成の経緯とまとめ方、また、今年度の評価の変更点と教育委員と外部評価者との懇談について説明をいただきました。膨大なシートですので事前にお配りし、説明の上目を通していただいていると思います。改めてご質問、またご意見を頂戴できればと思いますので、各委員よろしくお願いいたします。

柳澤委員。

柳 澤 委 員

細くなり過ぎて申し訳ないと思うんですけども、28ページのところで、再掲のところが幾つかあるので関連するんですけども、SDGsに関係して、意識していない学校が13校あるというちょっと違和感のある評価結果になっています。この13校は、そもそもSDGsを学校として取り上げるつもりがない、意思がないということなのか、あるいはそれに代替するものが他にあるので充足しているという解釈で考えておられるのか。こじつけでやるべきではないともちろん思うんですけども、SDGsは教科書にも出ている内容かと思うのに、意識していない学校が13校ありましたという具体的な表現になっているのでね。

それと関連して、事業費をそれぞれのところに提示されているんですが、この28ページのところでいうと、事業費がゼロで一切予算措置がされていない。この予算措置と実施状況はどのように関連していますか。学校自身のやりくりで、SDGsの取組にあまりは経費は要らないというお考えかもしれないんですけども、予算措置をする、しないについては、どんな考え方をお持ちなんですか。

教育政策課長

具体的に予算執行が伴わずマンパワーだけで行っているようなものもございますので、事業費の計上にあたってそれを職員の人件費を案分して計算するようなことまではしていません。具体的に予算執行が明確にあるものを事業費として上げております。

柳 澤 委 員

あえて意見を申し上げれば、事業を行う上で、ボランティアではなく、当然人件費を払っています。先生方の本来のミッション、仕事のうちであるという振り分けは可能ですが、特色ある奈良市の教育として打ち出すというときに、それが重点的課題と考えるのであれば、立ち上げ時についてはしっかりサポートしていくという姿勢も必要ではないかと思います。

教 育 長

ありがとうございます。ご指摘いただいている点についてはそのとおりだと思います。

他に、ございませんでしょうか。

梅田委員。

梅田委員

これまでも教育委員会の施策評価については、どのような形で何を基準として評価をしていくのかということが課題ともなっていましたけれども、今回K P Iを用いた評価手法を導入するという事で、最終ゴールに向けた1年ごとの目標数値がしっかりと明確になってきたというふうにも捉えております。このような形をしっかりと進めていくことが必要であると思います。

ただ、この評価を進める上で、今のK P Iはその推移をもって最終目標とするという形を取っていますけれども、これが振興基本計画のゴールとしてふさわしい形であるのか、あるいは、基準となる事業のK P Iが適切であるかなど、検討を要する課題も年を積み重ねるに従ってきつと出てくるだろうと思います。施策の実施が振興基本計画で述べた内容の実現に向かうものとなるよう、事務局においてしっかりまた検討・調整をしつつ、今年度以降の評価の円滑な活用に向けていっていただければと思います。

また、報告書から、この施策の推進が振興基本計画の実現に資するものであることが明確に見えてくることも必要です。その意味から、今後の活用に向けた意見を1点だけ述べさせてもらえればと思います。

今回の振興基本計画を策定していた協議の中で、計画を推進していくには、それぞれの具体の施策を各課ごとの縦割りでの実施ではなく、連携して進めていかなければ、奈良市の教育の特色を打ち出していく上においては随分と難しさも出てくるのではないかという意見がありました。それをこういう評価の中にどのように表せるか、非常に難しいことではあると思いますけれども、検討の中にはやはり入れていく必要があるのではないかと考えています。

一例を挙げますと、一番のネックにも目玉になっている「ICTを活用した学び」ですが、学校教育課の所管する事業として挙げてあり、K P I自体は、情報化実態調査で教員の能力や指導力についての肯定的な回答の割合が増加していくことで、最終目標は100%となっています。これは学校教育課が持っている事業を推進するという事はもちろんだけれども、そこだけではなくて研修と併せて推進していかないと、100%を達成するのは非常に難しいのではないかと思います。

教員の研修、研鑽ということについてはどのような形で示されているかを見てみると、市として実施をしている研修に対しての満足度がK P Iとして上がっており、この満足度を維持していくという考え方が述べられています。各課の連携が必須な重要施策等について、例えば、評価シートの成果欄に、教員が身につけるべき重点的な資質であったり、研修の担当課である教育支援・相談課と学校教育課が連携して学校に対して指導する内容や市が行う研修だけではなく、学校が行う研修に対しての指導をどのように行うのかなどの記述を付け加えることができるのではと思います。そうすれば、各課がつながって一体となって振興計画の実現に向けていると

いうことを、少しでも報告書の中で見せることができ、振興基本計画との整合性、または推進ということにつながっていくのではないかと思います。

いずれにしても、教育改革を進めるときには、それに携わる者の意識改革や行動変容が必要です。この施策評価が様々なものを活用しながらつないでいくという役割の一つを担うものになればと思って見させていただきました。

教 育 長

大変貴重なご意見をいただいたと思います。その視点で見ると、例として挙げてくださった研修も含めて、評価がどうつながっているのかということは見えにくいので、来年度、改善していきたいと思います。

他に、ご意見ございませんか。

川村委員。

川 村 委 員

取りまとめご苦労さまです。

仲林先生と橋崎先生とのオンライン意見交換会のときに、橋崎先生から、やはり先生方もとても負担を感じていらっしゃるこのコロナ禍であったと思うというご意見をいただきました。報告書の「学校の経営や運営体制について」のページの中にも、「教員の精神面のサポートも充実させるべきだと思います。」という形でご意見を載せられています。

今、子どもたちは、本当に多様な社会に向かって生き抜いていくために頑張っているんですけれども、それをサポートする学校現場の先生たちにもやはりそれなりのサポートが必要であり、心の余裕も必要であり、子どもと同様の形でサポートをしていただきたいとこの前のオンライン会議のときに感じました。今年度はそんな形で先生方の現場での働き方改革につながるようなものに少しでも取り組んでいただいて、来年度の評価が今年度より上がることを期待しております。

教 育 長

ありがとうございます。

畑中委員。

畑 中 委 員

私も外部評価の先生方との懇談会のことについて、ちょっと意見というか感想なんですけれども、令和3年度にコロナ禍で様々な教育施策に取り組んでいたことの評価についての的確なご意見をいただいたと思っております。コロナ禍の経験を今後、教育現場、それから家庭においてどのように生かしていくかというときに、数多くある施策が子どもたち一人一人の教育環境に目を向けたものになっているか、常に念頭に置いて取り組んでいく必要があると思います。そういった姿勢に加え、今後ますます推進されるICTの活用というのが、誰一人取り残さないというところにつながっていくのではないかと感じました。

教 育 長

ありがとうございました。

他に、ご意見ございませんか。

柳澤委員。

柳澤委員

数値化された形で評価をしていくということですが、全体を見ると、やっぱり想定される件数を満たしたものを100としているものが多いです。想定件数は予算の上限枠によって極端に変わりますので、現状の人数に対してどの程度対応できているかという指標が本来は設定されるべきだと思います。やってみないと分からないものもあり、私も、いわゆる数値化された方式がベストだとは思わないですが、ただ、予算で想定される相談件数を100とするのでは、予算が低いから100%達成できているなど、色々な読み取り方ができてしまいます。相談件数であれば、相談をお待ちになっている方がこれくらいあるとか、色々なデータを実はお持ちだと思っうんですけれども、それが評価に出てこないのは、数値設定に苦労されているということだと思います。

教育長

他に、ご意見ございませんか。

柳澤委員。

柳澤委員

ICT活用のところは、ハード面は大体確実に押さえられていますが、先生方の研修の程度もアンケートを取って、アンケートは客観的にもう一度フィードバックしないと、本当に研修効果があったかが分からないと思います。今は、研修効果の検証にはなっていて、満足しましたというややぼやとした評価なんです。これは本当の評価かということ、私の大学での経験では、そんなのは評価にならないんですよ、全く。それは単なる意向調査アンケートですので、それをエビデンスにするというのはそもそも駄目ですけれども、立ち上がってやっていく一番最初の段階では、このような調査も大切です。

さらに、今回触れられていない点で言うと、子どもたちから見てICT教育の成果はあったかということが全く見えません。先生は力んで一生懸命当然やっておられるが、そのことが子どもたちや保護者にとってどうであったか、これはもちろん学校評価アンケートという別のところで済んでいるとも言えますが、いわゆるソフト面でのアウトカム指標でもってそのあたりがどうなっているかもちょっと触れられるといいかなと。奈良市の教育の充実という観点からすると。

教育長

教育政策課長。

教育政策課長

ご意見ありがとうございます。

KPIにつきましては、現時点では最善のものだとは思っているんですけれども、十分に施策全体の達成度を評価できる数値がなく、満足度や予算を完全に執行できたときを100とするようなKPIを設定している

ものも一部ございます。K P I は経年変化を見ていくという意味でもころころ変えるべきものではない、目標も簡単に状況に応じて変えるようなものではないと思うんですけれども、今回は初年度ですので、よりよいK P I を設定できるか今後検討していきたいと思えます。

教 育 長

よろしいでしょうか。

今ご意見いただいたことについては、検討してまいります。

それから、前段、柳澤委員から、世界遺産学習においてSDG s を意識していない学校が13校あったという件ですが、この「意識していない」という意味が分かりにくいので、何をもって13校は意識してなかったとしたのか、説明ができるようにしてください。もし、表現を変える必要があるならば、委員の方の了解を得る形になります。

教育政策課長

即答できませんので、改めてお伝えいたします。

教 育 長

よろしく願いいたします。

それでは、ご意見をいただきましたことを、改善していきたいと思えます。よろしいでしょうか。

ご意見がないようですので、議案第23号「令和4年度奈良市教育委員会施策評価報告書」につきまして採決いたします。

本案を原案どおり可決することに決しましてご異議ございませんか。

各 委 員

異議なし。

教 育 長

異議なしと認めます。よって、議案第23号は原案どおり可決することに決定をいたしました。

これで、非公開を除く本日の全ての案件は終了いたしました。

教 育 長	これより、非公開の案件に移らせていただきます。
非公開案件	この審議は、奈良市情報公開条例第29条第2号の規定により非公開とする。
教育総務課長 保育総務課長	教育長報告（1）「令和4年度9月補正予算要求額」について、教育総務課長、保育総務課長より概要説明。
	＜異議なし＞
	本件については、原案通り了承された。
保育所・幼稚園課長	議案第24号「令和5年度奈良市立幼稚園園児募集要項について」、保育所・幼稚園課長より概要説明。
	＜異議なし＞
	本件については、原案通り可決した。
教 育 長	これで本日の案件は終了いたしました。この他に何かご意見、ご連絡はございませんでしょうか。
	次回、定例教育委員会の日程をお伝えいたします。
	9月は議会開催月のため、変更になる可能性がございますが、現在のところ、9月の定例教育委員会は、9月29日木曜日午前10時からの開催を予定しております。よろしくお願いたします。
	それではこれもちまして本日の教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。